筋違 R 遺跡　現地説明会資料　No.1

2009（平成 21）年 7 月 25 日（土曜）13：30 ～

1. 遺跡名称	筋違R（すじかい あーる）
2. 所在地	松山市福音寺町
3. 面積	272. 859㎡
4. 期間（発掘）	2009（平成21）年6月1日～同年7月31日（予定）
5. 調査種別	土木工事（宅地造成）に伴う記録保存のための発掘調査
6. 調査主体	財団法人松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター
7. 調査目的	対象地に残された埋蔵文化財の詳細を明らかにし、福音寺地区の歴史と文化を復元するための考古学的な調査情報を獲得する。
8. 調査成果	①対象地は東から延びる微高地（高台）の落ち際にあたり、自然流路が見つかり、かつての川附川の南岸の一角であることがわかりました。 ②流路は高台の落ち際を蛇行して流れ、堆積土から弥生時代前期（およそ紀元前300～200年頃、今からおよそ2,300～2,200年前頃）の土器や石器が見つかりました。土器には煮炊き用の甕形土器や貯蔵用の壺形土器、石器には稲穂の収穫に使われた「石庖丁」の未成品（作りかけ）がありました。 発見された土器の残りは良好で、近接する高台で暮らしていた弥生人が日常の生活の中で不要となったこれらの道具を投棄したことが考えられます。 ③これまでの調査結果と総合すると、弥生時代前期（今から2,300～2,200年前頃）から福音寺地区は、居住に適した高台と、生活に必要な水を提供する川があり、安定した居住環境であったことが明らかになりました。平成11年度に調査された筋違N遺跡の報告では「弥生～古墳時代の北微高地における居住エリアは、現地表面の標高29～28mの等高線を結んだ範囲　（松山市文化財調査報告書84集 2001年）」とされ、今回の知見はこの報告を裏付けるものとなりました。 発掘調査後は、出土した土器や石器などの遺物をはじめ、作成した測量図や撮影した写真等の整理と分析をおこない、福音寺地区で生活していた古（いにしえ）の人々の暮らしについて明らかにするとともに、土地利用の視点から居住環境の変遷も解明したいと思います。

写真１ 調査着手前の様子（南西より撮影）
※長年、水田や畑として利用されていました。

写真２ 自然流路（北東より撮影）
※今から2,300～2,200年前頃、かつての川附川が蛇行して流れていました。

写真３ 対象地の南東隣地（北西より撮影）
※弥生～古墳時代の北微高地の居住エリアがほぼ特定できました。

写真４ 雨天後の自然流路（南西より撮影）
※自然流路は細かい土で埋まり、砂や礫が殆どみられません。かつての川附川の縁辺部が湿地状の環境であったこともわかりました。

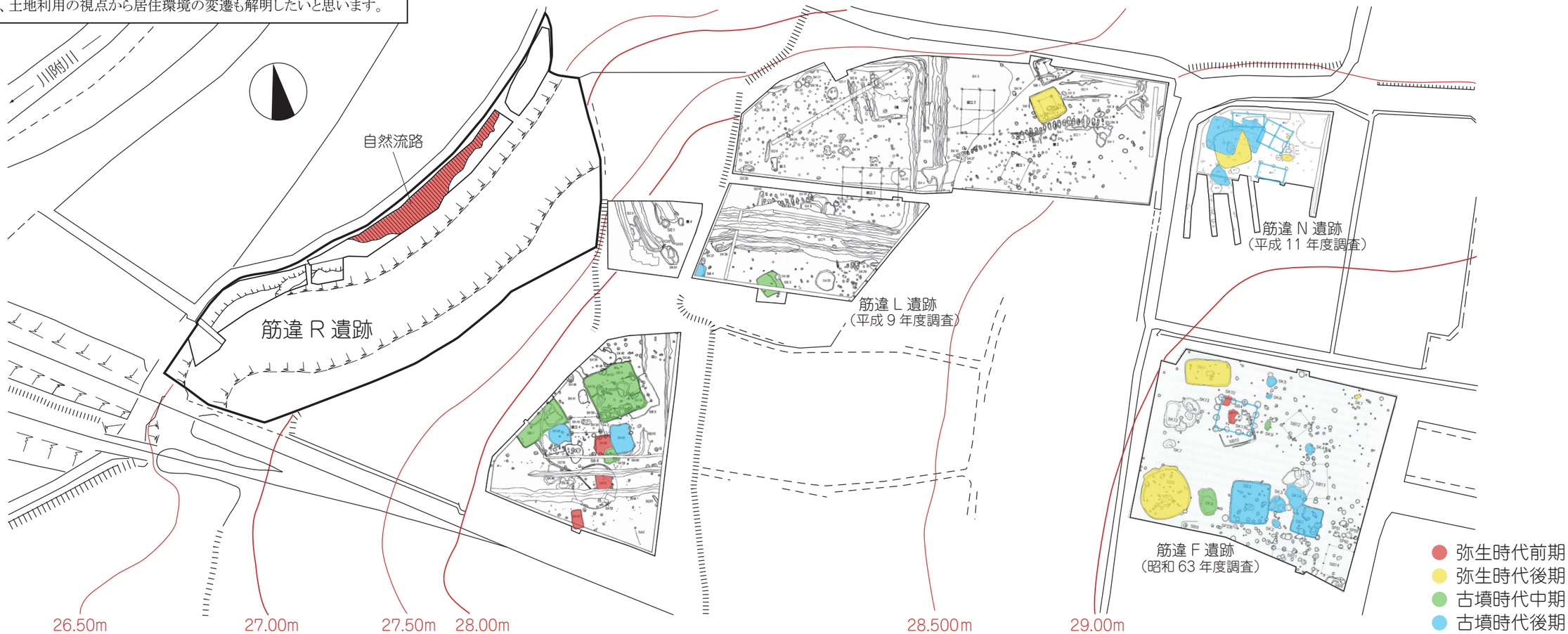

図１．　筋違 R 遺跡と周辺遺跡の測量合成略図

0　50m
（S＝1：600）

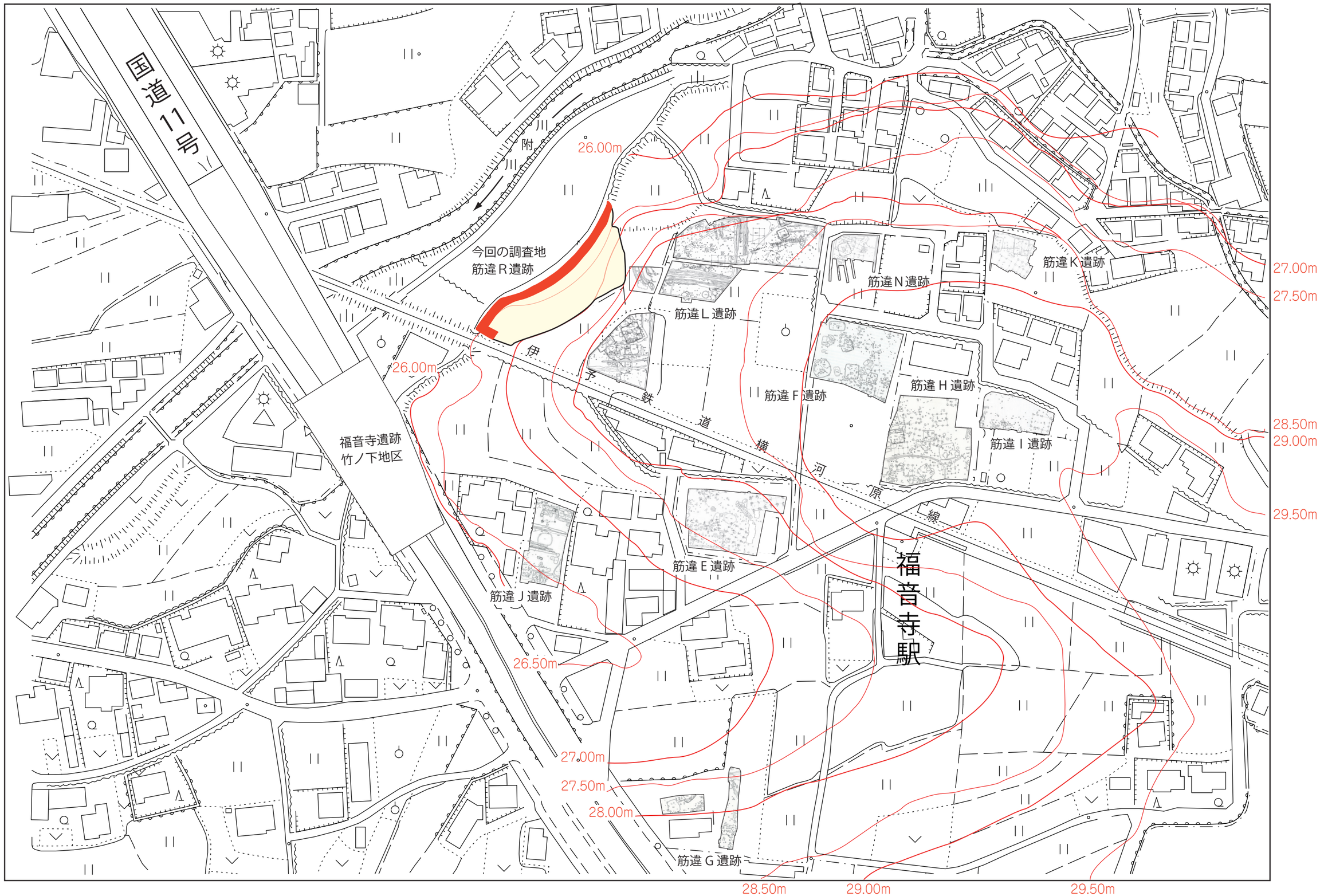

図２　福音寺地区の北微高地に展開する筋違遺跡群